

令和6年度 10月全校集会 校長講話

皆さん、こんにちは。

早いもので今年度も後半戦に入りました。お彼岸までの異様な暑さから解放され、特に朝晩は過ごしやすい季節となりました。これから日が暮れる時刻がますます早くなりますが、皆さんには引き続き交通マナーを守り、交通事故に遭わぬよう気をつけて学校生活を送ってください。

今日は2点、お話をします。

まず、1点目は学年ごとにお話をします。

3年生は総合型選抜を皮切りに、いよいよ本格的に受験シーズンに入ります。校長室に面接指導をお願いしに来る3年生も昨年に比べ出足が早いように感じます。本校は一般入試に臨む人が圧倒的に多いですが、大学側も定員確保のため年内入試で一定数を確保する狙いがあります。第一志望校であれば年内入試に挑戦するのも、一つの手段かと思えます。挑戦することを厭わないでください。

2年生は中間考査明けに修学旅行が控えていますので、引き続き健康管理には細心の注意を払ってください。そして、修学旅行が終わると、本校では受験生への意識づけを高めていく仕掛けが本格化します。

1年生は、2年後の自分を見据えてほしいと思います。今の皆さんは、もはや高校受験期の貯金はなくなり、本校入学後の努力が成績に反映されています。試験範囲が決まっている定期考査は大学入試の一里塚ともいわれます。定期考査の問題が解けなければ入試問題も手は出ません。中間考査に向けてしっかり準備を行ってください。

次に2点目は、「最新技術の背後にあるもの」ということでお話します。

私は昨年度本校に着任して以来、何度となくAI（人工知能）について皆

さんに話をしてきましたが、今日は違った角度からお話します。

かつて将棋の世界において、コンピュータソフトに著名な棋士が負けたということが話題になったことがありました。よく考えてみれば、著名な棋士はコンピュータソフトのプログラマー、つまり人間に負けたといえるのではないのでしょうか。このように背後には常に人間の存在があることを私たちは忘れてはなりません。皆さんが生き抜くこれからの時代は、人工知能（AI）やインターネット上で物が繋がるIoTが更に発達するといわれています。そのような時代であっても、それらを凌ぐのが人間の存在であるといえます。

シリアスな例を挙げれば、数百万の人間の命を一瞬にして奪うことができる大量破壊兵器というものが世に存在するといわれています。その発射ボタンを押す判断を下すのは人間です。そう考えると、私達人間が正常な理性を働かせることが、いかに大切であるかが分かるはずです。

ぜひ皆さんには、家庭や学校、地域において、理性を高めて欲しいと思います。この先、どんなにテクノロジーが進歩しても、常にその背後には人間がいます。

言い換えれば、人間としての理性こそが、これからの時代に皆さんが培うべきものではないでしょうか。

この後生徒会本部役員の認証式があります。前執行部の皆さん、本当にお疲れ様でした。心より感謝申し上げます。まさに1年前の10月2日に認証され今日に至るまで、目標として掲げた全てを1年間で達成することは難しかったことと思います。道半ばの取組は、新執行部に引き継いでもらうことが大切です。そうしないと代が変わる度にやりたいことも変わり、結局、毎年中途半端で代替わりすることになります。引き継ぐ内容を絞って次の執行部に引き継いでください。

そして、生徒の皆さんには、新たな船出を迎える新執行部を支え、不易流

行を大切にし、本校の良き伝統は継承し、改善すべき点は出来る所からスピード感をもって改善していく、生徒主体の学校づくりを全員で進めてほしいと願っています。

結びに、2年後の創立50周年に向けて、皆さんと先生方が力を合わせ、この春日部東高校を地域に誇れるオンリーワンの進学校として、「高いレベルの文武両道」を体現する学校にしてほしいと切に願っています。